

月例会ダイジェスト【120】

6月の月例会は、第34回日本健康教育学会（7/18～19、順天堂大学）を目前に「学会へ行こう!」と題し、運営・発表・協賛それぞれの立場から学会について語る場となった。コーディネーターは、福田洋氏（順天堂大学大学院）、海野賀央氏（㈱JERA）、江川賢一氏（東京家政学院大学大学院）、江口泰正氏（健康教育推進研究所）、金森悟氏（帝京大学大学院）、安倉紗織氏（ライフコンサルティングスタジオ／順天堂大学）の6名が務めた。

はじめに、さんぽ会の福田洋会長がイントロダクションを行い、学会とは研究発表の場であるだけでなく、多様な専門職が出会い、学び合う場でもあると述べた。自身が研修医時代に日本健康教育学会へ参加したことをきっかけに、さんぽ会を発足した武藤孝司助教授（当時）と出会い、順天堂大学やさんぽ会とのつながりが生まれ、その後のキャリア形成に大きな影響を受けたことを振り返った。「学会で人生が変わることもある」と語り、研究職だけでなく現場で実践を担う人々による発信こそが学会には不可欠であると強調した。

次に登壇した江川氏は、学会の聞き手としての立場で講演した。学会を楽しむコツとして「マイクの前に立つ」「セッティングをまたぐ」「ネットワーキングを行う」の3点を挙げた。積極的に質問・発言することで、自身の存在を知ってもらえ、産業保健の枠を越えて学校保健や地域保健など異なる領域の発表にも耳を傾けることで新たな視点が得られると説明した。さらに学会での出会いがその後の活動や人脈形成につながることを、自身の体験を交えて紹介した。

続いて日本健康教育学会の発表者として上尾中央第二病院に保健師として勤務する込山里米氏と米澤夕紀氏がその経緯や準備プロセスについて報告した。込山氏はさんぽ会での福田会長の「病院での産業保健が最後の聖域」という発言を支えに病院での産業保健実施の思いを長年温めており、米澤氏の入職を機に2023年に病院職員の健康づくりを目的とした院内産業保健活動を開始した。そこで明らかになった「医療従事者の受診率の低さ」を研究テーマとし、福田氏の支援を受けて初めて学会発表に臨むことになった。研究計画書作成や疫学ゼミ参加、院内発表、演題登録など、学会発表の準備過程を、緊張や期待が入り混じる心境を交えながら紹介し、学びの中での多職種との出会いについて振り返った。

その後もさまざまな立場から学会参加の意義や楽しさが語られた。

江口氏は、学会発表に慣れていない人向けに、学会や演

題選定から、申込み、抄録作成、資料作成、発表練習に至るまでの流れを説明した。準備のポイント、聞き手が理解しやすい話し方のコツなどの実践的な内容も解説し、発表を通じて論理的思考や情報発信力が向上するだけでなく、発表者の気づきが誰かの力になると結んだ。

海野氏は前職で人事労務担当者として健康経営の立ち上げを担当したことをきっかけに産業保健を学ぶ必要性を感じ、さんぽ会に参加した。さらに、産業保健の実践には法律や判例の理解も必要と感じ、日本産業保健法学会でも学びを得ている。実務では、医学、人事労務、法学の専門家の連携が重要であるため、産業保健職も法律の理解が不可欠であると話し、次回の日本産業保健法学会への参加を呼びかけた。自身もさんぽ会や学会参加により専門家とつながり、シンポジウム・座談会への参加、書籍の共同執筆などの機会を得ることができたという。

成瀬健一氏（㈱アドバンテッジリスクマネジメント）は、企業の健康経営とメンタルヘルス支援を手がける協賛企業の立場から、企業ブースを情報収集や市場動向の把握だけでなく、より「人」に注目し、共同研究やキャリア形成につながる出会いの場として活用してほしいと話した。

日比野浩之氏（順天堂大学）は、多くの国際学会へ参加した経験について紹介した。日本にはない大きな規模で行われることが多い国際学会に参加することは貴重な経験であり、日本のガイドラインなどの現状や産業医としての取組みを発信するだけでなく、各国の専門家との交流により、産業保健の実践を世界的な視野で捉えることができると語った。

金森氏は、日本産業衛生学会や日本産業看護学会での経験を例に、新たな知識の習得、ゆるやかな人的ネットワークづくり、発表を通じて自分の実践を言語化することで整理し、それが他の現場のヒントになること、さらに他者からのフィードバックで気づきが得られることなどを参加の意義として挙げた。まずは「聞くだけ」「交流企画だけ」から、次に「質問する」「知り合いをつくる」ステップに進み、いつか発表することを目指すというように、自分に合った関わり方から学会参加を始めることを勧めた。

後半は、参加者アンケートを活用し意見交換が行われた。「学び」「出会い」「モチベーション向上」「交流」などのキーワードが共有され、学会が知識獲得の場であるとともに「邂逅（かいこう）の場」であり、人とのつながりを広げ、参加者の人生やキャリアに新たな可能性をもたらす場であることがあらためて確認された。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <https://sanpokai.net>
- FB ページ <http://www.facebook.com/sanpokai>